宮島まちづくり基本構想の策定によせて

このたび、「**神をいつきまつる島づくり**」と題した「**宮島まちづくり基本構想**」をとりまとめることができました。この構想は、宮島の「**あるべき姿**」と「**ありたい姿**」を明らかにし、今後の宮島のまちづくりの道標となるものです。

タイトルのとおり、宮島は信仰により守り伝えられてきた地域といえます。信仰の出発点となる「**自然**」、そこで生み出された「**文化**」、それを紡いできた「**歴史**」、これらこそが、現在の宮島を創りあげてきた原点であり、将来にわたり守り伝えていくべきものです。

平成 8(1996) 年 12 月、嚴島神社とその背後の原始林が世界文化遺産に登録され、世界共通の財産として価値付けが成されました。その後インターネットや SNS の発達、そして、観光のグローバル化などによりこれまでに無いほど多くの観光客が宮島を訪れています。反面、戦後間もなく 5,000 人を超えた島の住民は 1,500 人と著しく減少し、平成 9(1997) 年には、過疎地域となっています。

急激な人口減少に相反する観光客の激増、観光のグローバル化とそれに伴う様々な影響。さらに、地球温暖化による環境の変化。1400 年という厳島の歴史のなかで、幾たびも大きな転換期はあったと想像できます。しかし、これほどの急激なグローバリズムを伴うパラダイムシフトは初めてのことでしょう。

この変化を受け止め、適合しながら、私たちは宮島のまちづくりを進めていかなければなりません。宮島に暮らす人、働く人、想いをはせる人、訪れる人、つまり、宮島に関わる全ての人と行政とが一体となって、世界から“人”が集まる『**全島博物館:厳島**』をめざします。

私たちには
守るべきものがあります。
伝えるべきものがあります。
できることがあります。

手と手を携え、まちづくりを進めて行きましょう。

おわりに、この構想の策定にあたって、
御意見やお力添えをいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月 31 日

廿日市市長
松本太郎